

# WOODEN WONDERは SYNTHETIC RESINの 夢を見たか？ (意味完全不明)

デ・ハビランド モスキート FB Mk.VI  
●発売元/タミヤ ●21384円、発売中  
●1:32、約42.4cm ●プラキット

TAMIYA 1:32 scale plastic kit  
De Havilland MOSQUITO FB Mk.VI  
modeled by YONKEI

最近では超訳によって「驚異の木製機」と言われることの多いモスキート。やっぱり直訳調の「木製の驚異」のほうがイギリスっぽい感じがしないかい？ しませんか、ごめんなさい。驚異の木製機を生み出したデ・ハビランドがS田さんのように「そんなこともあるかと全木製だよ」といったかどうかはわからないけれど、手慣れた木製機体を究極まで突き詰めて完成させたのがモスキートだった。しかし、その陰で木工に最適な合成樹脂の接着剤を地道に研究していた人たちがいたからこそその成果であることを忘れてはいけない。ドイツの「蚊」は空中分解したものだ。

そんなことはさておき、タミヤのモスキートは圧倒的なパーツ数と精緻な成型、高いパーツ精度で見事に木製の驚異を再現した。その内容を速攻レビューする。

## De Havilland D.H.98 Mosquito FB Mk.VI



▲キットには第487飛行隊（ニュージーランド空軍）、第305飛行隊（ポーランド）、オーストラリア空軍第1飛行隊のマーキング・デカールが付属する。作例はイギリスで編成されたポーランド人部隊である第305飛行隊の機体を選択



▲金属外皮のキットとは違い、リベットやパネルラインの表現はほとんどない。実機の胴体や翼の表面が平滑なのは木材を目止めしているのではなく、木地保護のため木綿の布をドープで貼り込んでいることによる。このため実機では布が重なり合った部分の段差や、補強用のテープが貼り込まれたことによる微妙な段が見えている部分もある



タミヤ 1:32スケール プラスチックキット  
**デ・ハビランド モスキート  
FB Mk.VI**  
製作・文/ ヨンケイ

零戦52型から始まった超精密大戦機シリーズ初となる双発機としてデ・ハビランド・モスキートが登場しました。精密に再現されたエンジンが2基、細かく分割された脚や充実した無線装置等々、とにかく部品点数が多いです。組んでも組んでも部品が減ってる気がしませんが、それでも組み立てるのが楽しく次の

工程にストレスフリーに進むことができるのがタミヤクオリティ、ほとんどの部品が互いに吸い寄せられるように嵌まって行きます。

### ■注目ポイント

①胴体の一体成型で注目を集めているHKモデルのモスキートに比べ、若干後発になってしまったタミヤのモスキートですが、胴体はオーソドックスな左右貼り合わせ構造が採用されています。発売前に一部で「野心的な一体成型を採用したHKに比べタミヤは……」と批判されていましたが、胴体の左右部品を接合すれば数秒で一体化できることと、一体構造ゆえの内部塗

装の難しさや再現性の低さを天秤にかけると、タミヤの判断は正しかったと思われます。なにより、実機と同じ分割なわけですから。パネルライン等のモールドが存在しないモスキート、接着線を消すのも金型のパーティング跡を消すのも手間は同じですもんね。

### ②動翼部可動の廃止

タミヤにしかできない究極の1:32航空機を目指していたのは理解できましたが「壊れるから可動ギミックはほどほどにしてくれ」と正直思っていました。今回のモスキートは可動部をほぼ廃止、オーソドックスな状態選択式とし、エンジンカウル等の脱着はネオジム

▼主脚は繊細な部品で構造をよく再現している。巧みな部品構成で強度も十分に確保されており、さすがの感がある。しかも、サスペンションを可動にすることも視野に入れたとは思えない分割になっているところがすごい



▲エンジンカウルはこれまでのシリーズ同様にネオジム磁石により着脱可能な構造となっている



▲▶コックピット内のパイロット、ナビゲーターのフィギュアはかなり良い感じの表情なのでいいに塗装しよう



▲各動翼は、今回のキットでは割り切って選択固定式になっているが、取り付け角によってジョイント部品が別になっているので間違えないように注意し、予め下げとするとニュートラルにするかなど決めてから作業しよう。可動への改造も比較的容易な部部分割なので腕に覚えのある人はチャレンジしてみるのもいいかもね。また、作例の機体はGE航空装置搭載であるためアンテナは胴体内部に張られている。なのでアンテナ支柱は不要となる。木製機なりよこそなのである

磁石による吸い寄せ式でタミヤらしさもきちんと残しています。

### ③マーリンエンジン

P-51とスピット、そして今回のモスキートと大活躍中の“タミヤ発動機製”マーリン・エンジンですが、部品点数が多いので片側だけの再現とするのかな？と思いましたが、モスキート搭載仕様になったエンジンがきちんと2基入っています。既発売のキットから同一エンジン搭載機体を探していけば次の製品の姿が見えてくる？ このパターンから推察するとコルセアのR-2800を流用して次はアレかな？……期待

が膨らみます。

### ④超精密フィギュア

噂によると人体を3Dスキャナーでデータ化しそれを金型に落とし込み再現されたといわれる搭乗員フィギュア、素晴らしい完成度です。表面のヒケや変形が発生しないようフィギュアの胴体部分は前後分割式で採用、“人間の厚み”が十分に再現されています。

圧巻はトレッド面組み立て式の自重変形タイヤ。この手のパーツはレジン以外では再現不可能だと思っていましたが……完璧な再現です。

### ■タミヤVS造形村

以前作例を担当させていただいた造形村のホルテン、このキットは設計者の情熱がそのまま金型に刻み込まれて形になったような素晴らしいキットでした。そして今回のモスキートも、設計者の情熱が大陸を形成してしまいそうな勢いを感じさせるキットです。もしかしたら互いの設計者は、映画『13DAYS』のケネディとフルンショフのように互いの設計した製品で互いに刺激しあい『次はどう来る？』と金型で会話しているんじゃないのか？なんて妄想してしまいます……次はどう来るのでしょうか？

